

# 北陸街道の泊宿と境宿

21.12.31to

## 1. はじめに

越中路東端域の泊、境を対象とする。なぜ扱うかといえば、富山にとっては京都文化圏の辺境域だからである。

## 2. 泊宿

泊の街の生業は漁業と農業である。地形、近代民主主義、現代街づくりの3点から論述する。

### (1) 泊宿、地形と街道

泊宿は県東部の端域にあり、地形的には黒部扇状地の東端である。この東端には朝日岳からの源流が黒部扇状地に入り、黒部川支流を奪い取って本川となった。これが小川と称されている朝日町(泊)の川である。

北陸街道については、黒部から泊へのルートは下街道と上街道に二分され、下街道は黒部三日市から入膳、泊を経たルートであり、上街道は黒部三日市から浦山や愛本刳橋を経て舟見から北上して泊に至るルートである。

### (2) 泊事件 (横浜・泊事件) (文献 1)

民主主義が危機に陥った近代日本最大の言論弾圧事件「横浜・泊事件」が発生。粘り強い運動が展開。以下に概略を記す。

朝日町出身の細川嘉六は社会運動を専門にした法学者であり、でっち上げ事件に巻き込まれた。一部始終は以下の通り。

- ・1942年、細川嘉六の論文が検閲で問題化。
- ・細川が地元旅館「紋左」に言論関係の方々を招いた会食時の記念写真が謀議のでっち上げに使用。
- ・神奈川県特高により細川嘉六をはじめ言論人多数が検挙。
- ・その後終戦。被告たちは権力を相手に半世紀の戦い。
- ・2005年に再審が開始。裁判打ち切りの免訴判決で幕引き。

### (3) 細川嘉六の業績

1918年の米騒動について、14年後(1932年)、米騒動の詳細を先駆的にまとめた論文によって、米騒動の歴史的意義が確立されたといわれている。

### (4) 街のいま

泊は宮崎・境も含めて文化の宝庫といえる土地柄もあって、若者が「消えてたまるか泊の街」として頑張っている。

・料理旅館「紋左」(写1)；



写1 旅館「紋左」

本旅館は北陸街道にほとんど直に面しており、宿場では唯一現存する旅館であり、歴史の舞台ともなった。築150年ほどの木造建築が歴史の証人として今なお健在である。広間では研究会がしばしば開催されている。



写2 春の四重奏

・朝日町は春の四重奏で有名。空の青、朝日岳の白、桜のピンク、チューリップの赤や黄、の大パノラマで圧巻。(写真2)

## 3. 越中宮崎

境海岸の西隣の位置に(泊からなら東へ数kmの位置に)、越中宮崎があり、ヒスイ海岸の町として知られている。越中宮崎のヒスイについては、糸魚川の姫川から流されてきたヒスイが宮崎浜にたどり着いたという説と、宮崎浜沖合にもともとヒスイ原石の岩脈があるという説とがある。未だにどちらなのか、決着はついていない。

## 4. 境宿

境は、先史期には石斧生産・加工地であったが、いつしか製塩の街として賑わい、近世に入ってから、越中の最東端の関所の街となった。

越中と越後の境目においては、交通の要所として越中側にも越後側にも関所が置かれ、越中側が境宿の境関所であり、越後側が市振宿の市振関所である。越後側は幕府の関所であり、高田藩が運営を担当していた。これに対して、越中側では加賀藩の関所として藩が運営し、関所の規模は箱根の倍規模であったといわれている。(写3)

なぜ、境の方が箱根より規模が大きかったのか。箱根は人通りも多く、民活故に軍事の面からの防衛危機はさほどでもなかったからであろう。これに対して境の場合、国境警備に重点を置くという名目で加賀藩が威信を誇示したことにより、関所が大規模になったといえよう。

関所の施設をみよう。境関所 HP 資料によると、海上渡航を改める浜関所、街道通行を改める御関所、会場や山中での越境をみはる御亭、御旅屋、射撃場、牢屋、役人長屋などがあったといわれている。関所の陣容は、奉行から足軽まで60人。装備は、槍70、鉄砲70、弓30が備わっており、こうした装備は箱根の倍規模という。



写3 境の関所 境関 HP より



## 5. おわりに

街道と宿場の生活営みを論じた。以下に気づきをまとめる。

- ・境を中心に石器文化(石斧)や装飾文化(ヒスイ)が全国に交易。
- ・泊では、富山の近代民主主義を息づかせた泊・横浜事件の歴史が垣間見られる。

**謝辞:** 本稿は、種々の専門家との談義を取材材料として活用させていただいた。関係各位に記して謝意を表す。

**参考・引用文献** 1) 金澤俊子；一連の細川嘉六研究